

## 第2章 食をめぐる現状と課題

### 1 山梨市の食に関する状況

ライフステージ別にアンケートを実施したところ、山梨市の食生活の課題が見えてきました。これらの課題を踏まえ、今後の食育推進活動に活かしていきます。

調査対象区分	調査期間	調査対象	調査方法
妊娠期	令和6年10月 ～令和7年3月	母子健康手帳交付者	母子健康手帳発行時にアンケート実施、回収
幼児期	令和6年10月 ～令和7年3月	1歳6か月、3歳、5歳児健康診査対象者の保護者	乳幼児健診通知にアンケート同封。健診時に回収。
学齢期	令和6年11月～	小学校6年生、中学校3年生	Web 回答(ロゴフォーム)
青年期	令和6年10～11月	日川高校、山梨高校2年生	Web 回答(ロゴフォーム)
壮年期 中年期 高齢期	令和7年1月～	市民19～80歳までの2,000名 (無作為抽出)	アンケートの返信または Web 回答(ロゴフォーム)

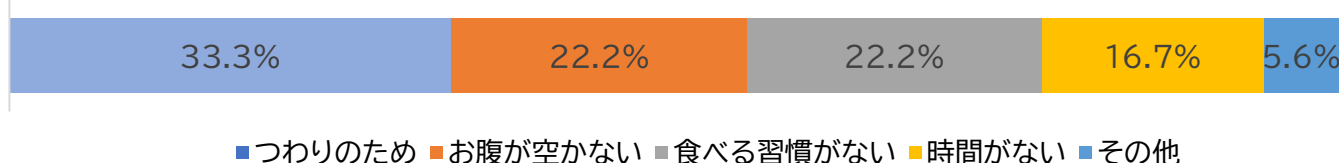
調査対象区分	調査依頼件数	回答受領件数	回収率(%)
妊娠期	76	76	100
幼児期	287	287	100
学齢期	217	217	100
学齢期	223	223	100
青年期	308	308	100
壮年期 中年期 高齢期	2000	891	44.6

## ○妊娠期について

### 朝食を食べますか

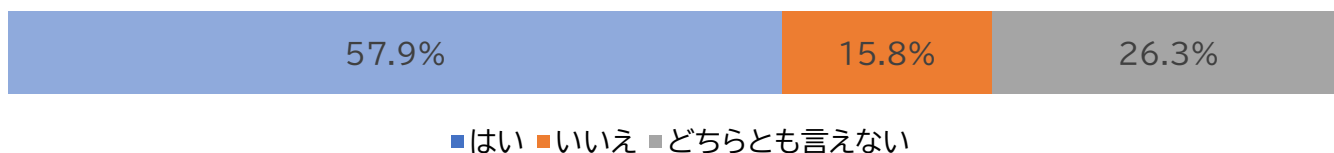


### 朝食を食べない理由



- ・朝食を「ほぼ毎日食べる」人の割合は、76.3%であった。
- ・朝食を食べる頻度が「週4~5回」「週2~3回」「ほとんど食べない」人を合わせた割合は、23.7%であった。

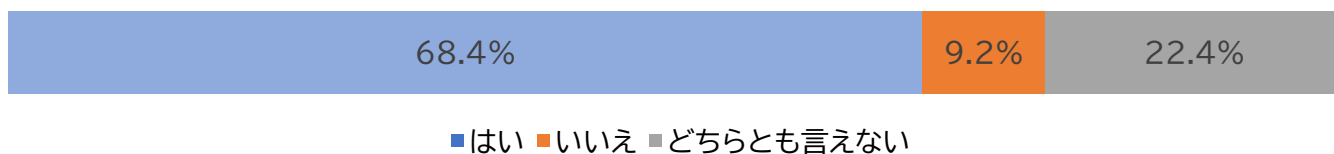
### 妊娠中「カルシウム」を多く含む食材を積極的に摂っていましたか



### 妊娠中「鉄」を多く含む食材を積極的に摂っていましたか



### 妊娠中「葉酸」を多く含む食材を積極的に摂っていましたか



- ・妊娠中、積極的に摂りたい栄養素として、「カルシウム・鉄・葉酸」がある中で、「葉酸」を積極的に摂取している人が68.4%と一番多く、次いで「カルシウム」、「鉄」であった。

## 食塩摂取の目標量(女性)が6.5g未満を知っていますか

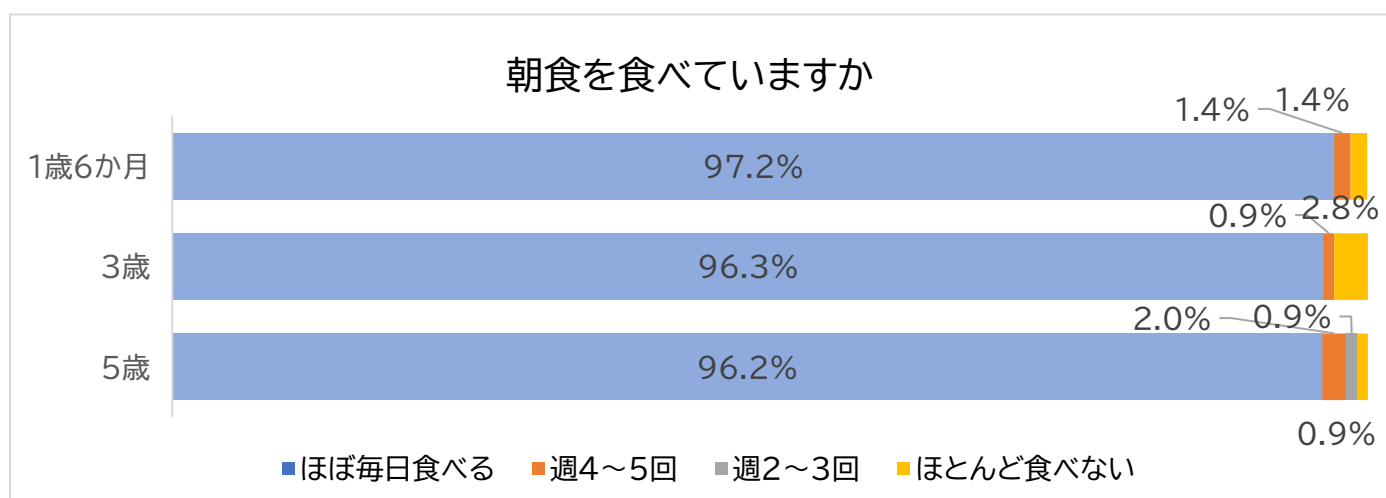


・女性の食塩摂取量の目標量の値を知っている人は、43.4%であった。

## 妊娠期の課題

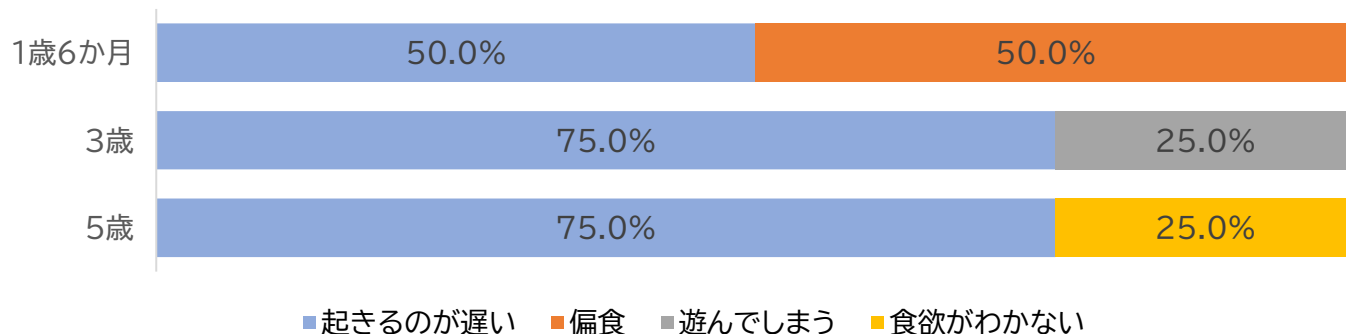
妊娠期は、母親の健康と赤ちゃんの発育にとって重要な時期です。母子ともに必要なエネルギーや栄養を補うためにも、妊娠前から3食バランスよく食べることが大切です。また、カルシウム・鉄・葉酸はこの時期に積極的に摂取すべき栄養素ですが、これら3種類の栄養素を積極的に摂取している人は32.9%と低い値でした。主食・主菜・副菜をそろえてバランスのよい食事を取り、適切な量の塩分摂取を心がけ、健康な体をつくることが重要です。

## ○幼児期について



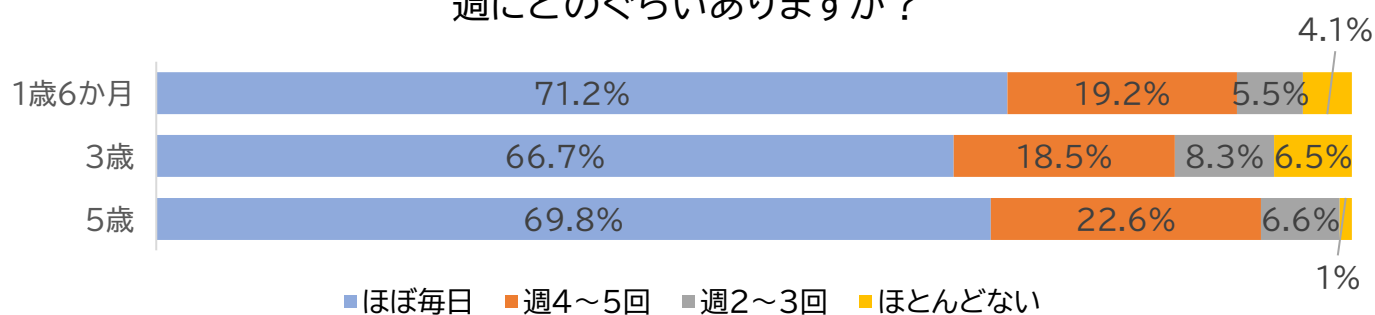
・朝食を食べる頻度が「週4~5回」「週2~3回」「ほとんど食べない」人を合わせた割合は、1歳6か月で2.8%、3歳で3.7%、5歳で3.8%という結果であった。

### 朝食の欠食がある子の理由



・朝食を食べない理由としては、どの年齢も「起きるのが遅い」が回答として多かった。

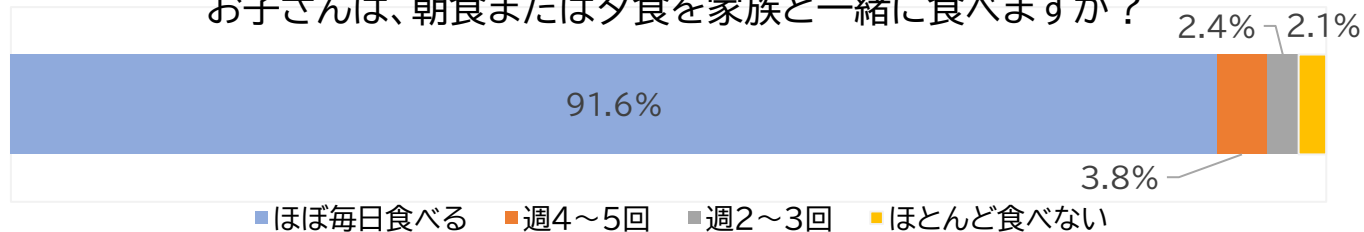
### 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上している日は週にどのぐらいありますか？



・主食・主菜・副菜のそろった食事を1日に2回以上とる日について、「ほぼ毎日」の人の割合は、1歳6か月児71.2%、3歳児66.7%、5歳児69.8%であった。

・「週4~5回」「週2~3回」「ほとんど食べない」人を合わせた割合は、1歳6か月児28.8%、3歳児33.3%、5歳児30.2%であった。

### お子さんは、朝食または夕食を家族と一緒に食べますか？



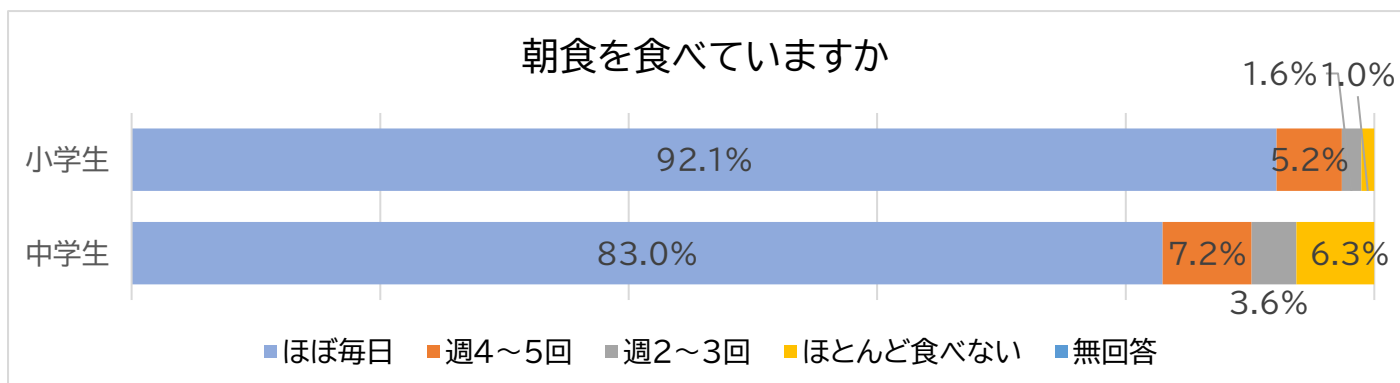
・朝食又は夕食を家族と一緒に「ほぼ毎日食べる」人の割合は91.6%であった。

・「週4~5回」「週2~3回」「ほとんど食べない」人を合わせた割合は、8.3%であった。

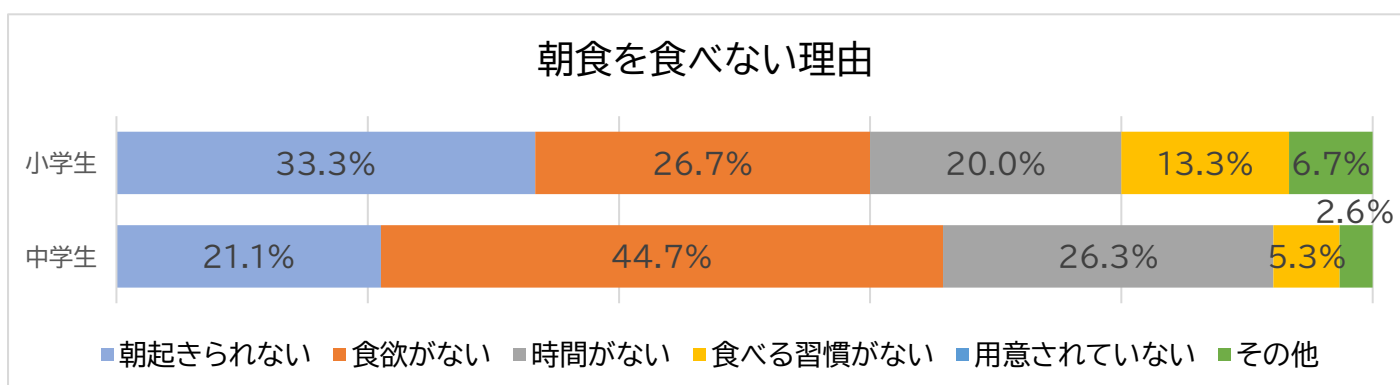
### 幼児期の課題

幼児期は、心と身体の手台をつくる重要な時期であり、必要な栄養素をしっかりと確保するために3食の食事が欠かせません。幼児期の中にも朝食を食べていない日がある幼児がいるのが現状です。生活リズムは子どもの成長において重要なため、食事や睡眠などの生活リズムを整え、朝食を食べる習慣を身につけることが大切です。食事環境や食事のバランスは保護者の影響が大きいいため、保護者へのアプローチを行い、食への関心を高める必要があります。

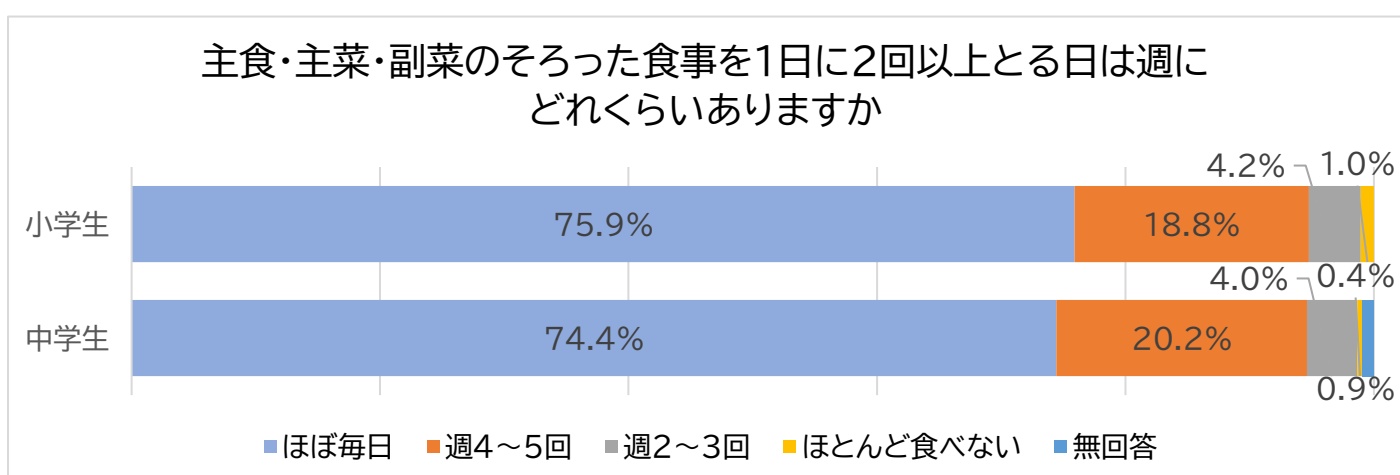
## ○学齢期(小学生・中学生)について



- ・朝食を「ほぼ毎日食べる」人の割合は、小学生で92.1%、中学生で83.0%であった。
- ・朝食を食べる頻度が「週4~5回」「週2~3回」「ほとんど食べない」人を合わせた割合は、小学生7.8%、中学生17.1%であった。

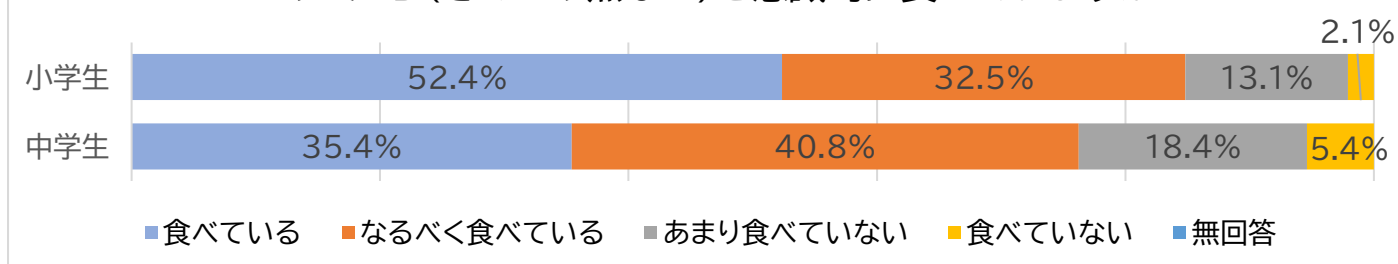


- ・朝食を食べない理由としては、小学生は「朝起きられない」が一番多く、次いで「食欲がない」、「時間がない」、「食べる習慣がない」という結果であった。
- ・中学生は「食欲がない」が一番多く、次いで「時間がない」、「朝起きられない」、「食べる習慣がない」という結果であった。



- ・主食・主菜・副菜のそろった食事を1日に2回以上とる日について、「ほぼ毎日」の人の割合は、小学生75.9%、中学生74.4%であった。
- ・「週4~5回」「週2~3回」「ほとんど食べない」人を合わせた割合は、小学生24%、中学生25.5%であった。

## 骨を丈夫にするカルシウム(牛乳・乳製品など)や ビタミンD(きのこや魚など)を意識的に食べていますか



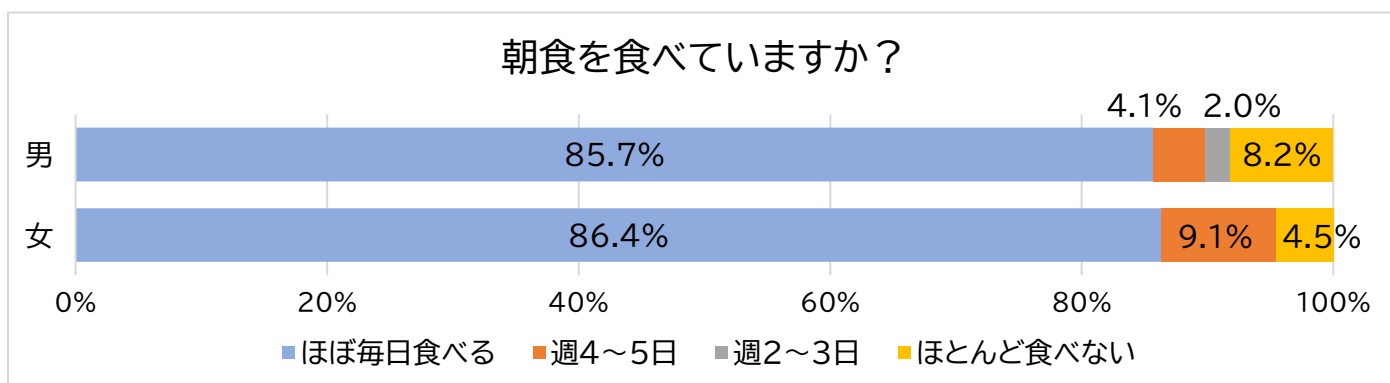
・骨を丈夫にするカルシウム(牛乳・乳製品など)やビタミンD(きのこや魚など)を意識的に「食べている」「なるべく食べている」人を合わせた割合は、小学生84.9%、中学生76.2%であった。

・「あまり食べていない」「食べていない」人を合わせた割合は、小学生15.2%、中学生23.8%であった。

### 【学齢期の課題】

成長期にある子どもにとって、健全な食生活は健康な心身を育むために欠かせないものであると同時に、将来の食習慣に大きく影響するとても重要なものです。学齢期は生涯にわたり健康に過ごすための基礎を培う時期でもあり、栄養バランスのとれた学校給食を「生きた教材」とし、発達に応じた食育を行う必要があります。また、家庭での影響も大きいので、保護者にもアプローチしていく必要があります。

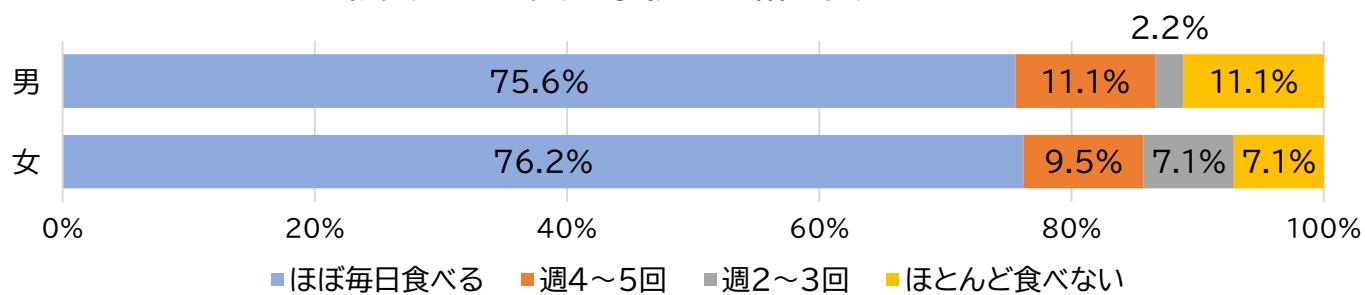
### ○青年期(高校生)について



・朝食を「ほぼ毎日食べる」人の割合は男性で85.7%、女性で86.4%であった。

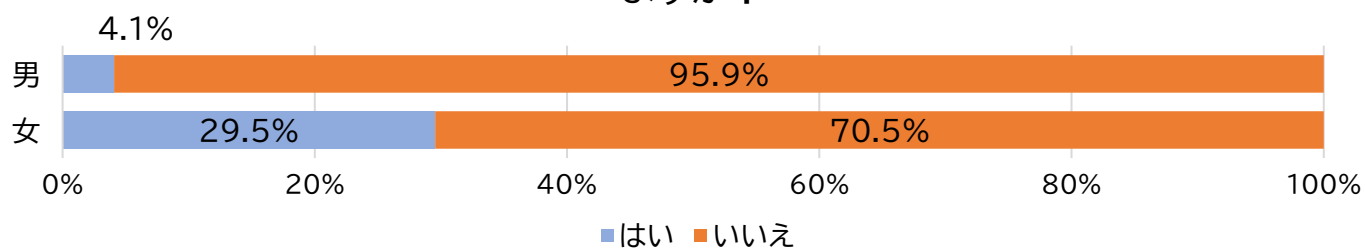
・朝食を「週4～5日」、「週2～3日」、「ほとんど食べない」人を合わせた割合は男性14.3%、女性13.6%であった。

### 朝食又は夕食を家族と一緒に食べますか？



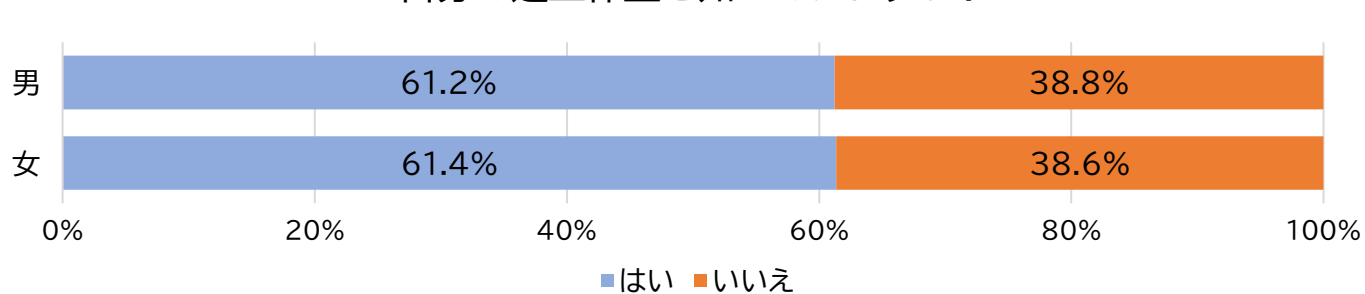
・朝食又は夕食を家族と一緒に「ほぼ毎日食べる」人の割合は男性で 75.6%、女性で 76.2%であった。

### 体型を気にして食事を抜くことがありますか、または残すことがありますか？



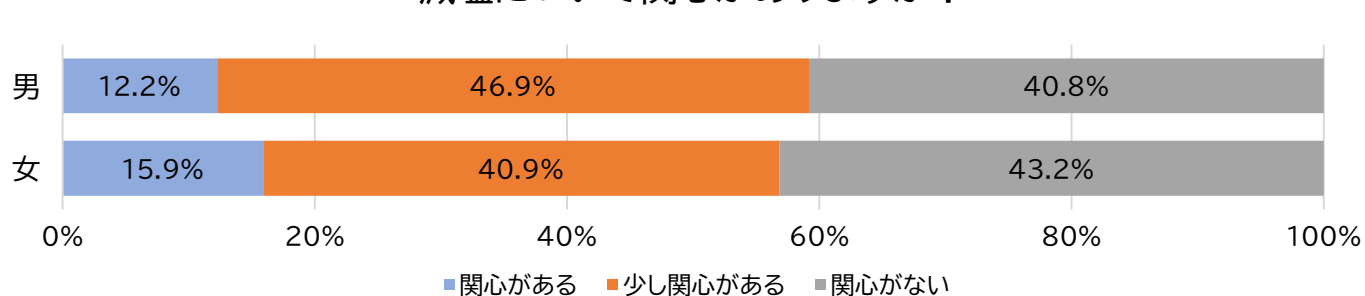
・体型を気にして食事を抜くことがありますか、または残すことがある人の割合は男性が 4.1%、女性が 29.5%で女性の方が高かった。

### 自分の適正体重を知っていますか？



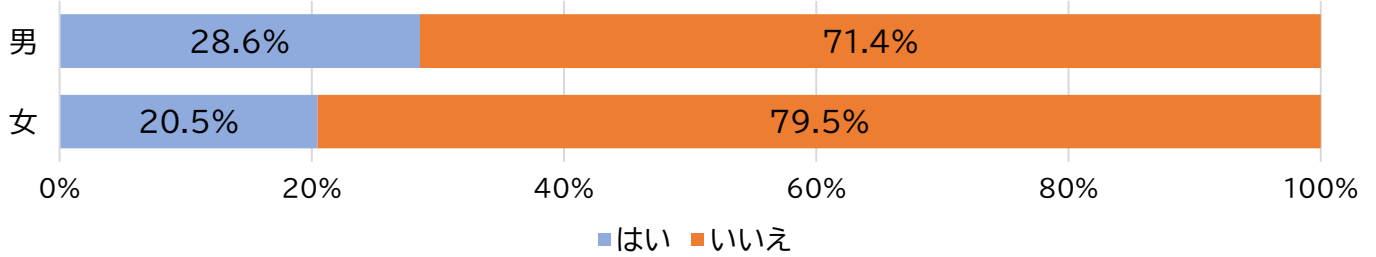
・適正体重を知っている人の割合は男性 61.2%、女性 61.4%であった。

### 減塩について関心がありますか？



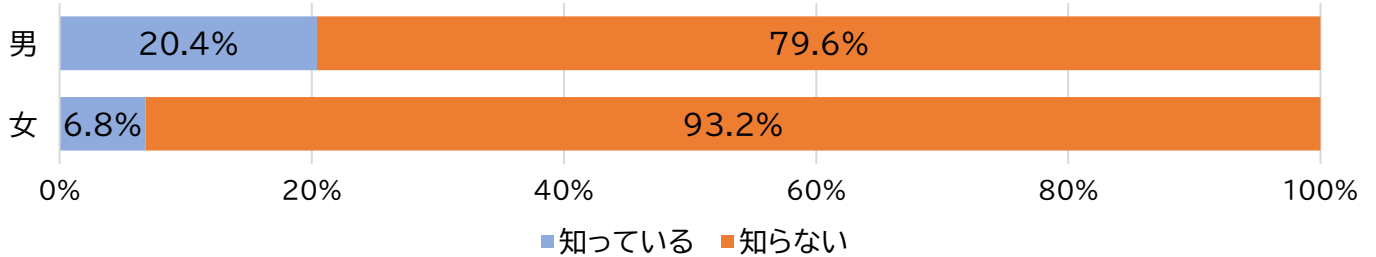
・減塩について「関心がある」、「少し関心がある」を合わせた割合は、男性 59.1%、女性 56.8%であった。

### 減塩について学んだことがありますか？



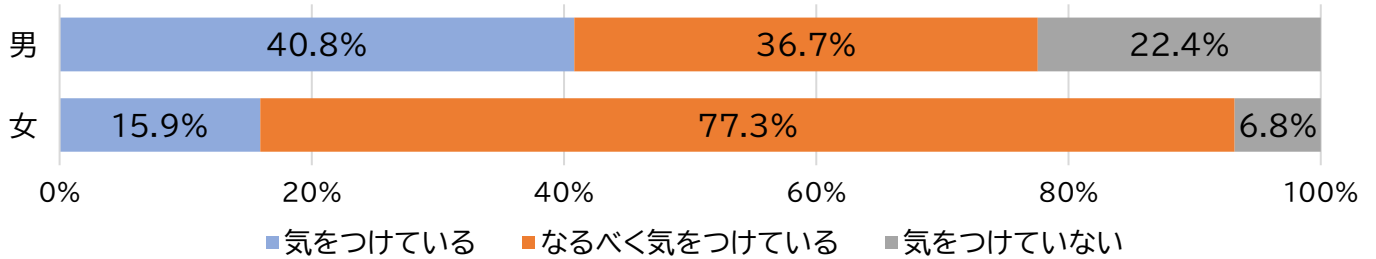
・減塩について学んだことがある人の割合は女性(20.5%)より男性(28.6%)の方が高い。

### 1日の食塩摂取の目標量を知っていますか？



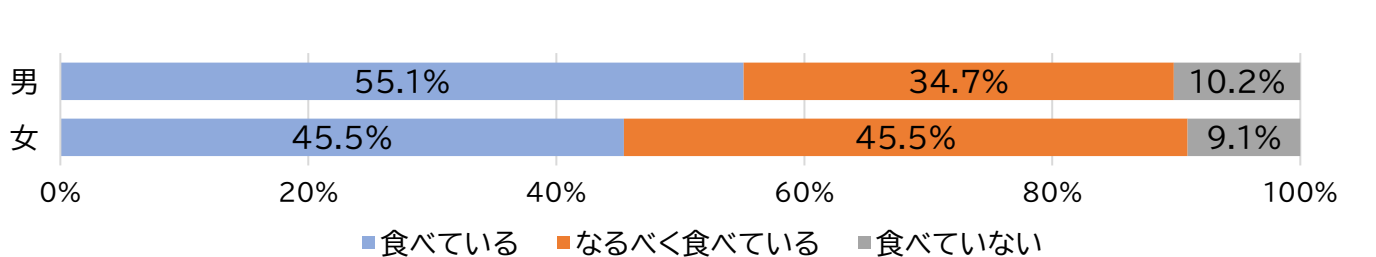
・1日の食塩摂取の目標量を知っている人の割合は女性(6.8%)より男性(20.4%)の方が高い。

### 食事をする際、食事のバランスに気をつけていますか？



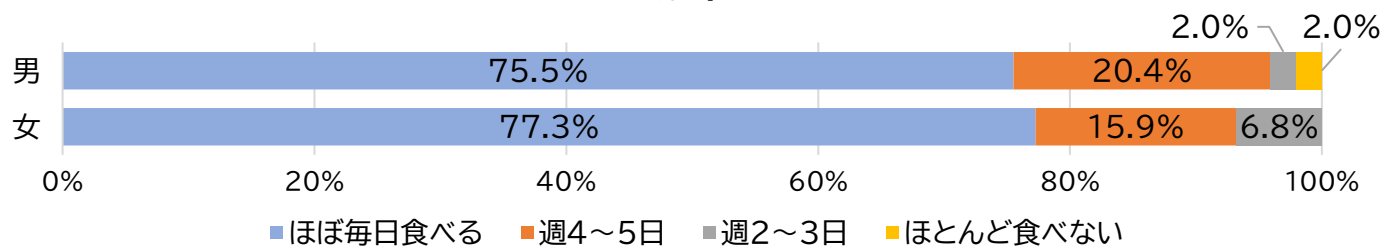
・食事のバランスに「気をつけている」、「なるべく気をつけている」人を合わせた割合は男性 77.5%、女性 93.2%であった。

### 骨を丈夫にするカルシウムやビタミンDを意識的に食べていますか？



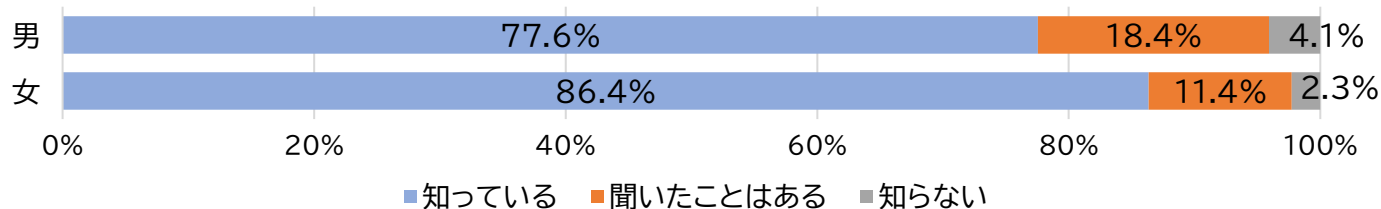
・骨を丈夫にするカルシウムやビタミンDを意識的に「食べている」「なるべく食べている」人は男性 89.8%、女性 91%であった。

### 主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上摂っていますか？



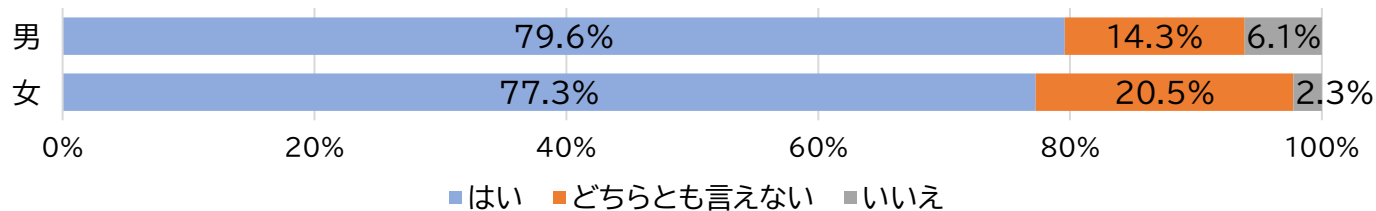
・主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上「ほぼ毎日食べる」人の割合は男性75.5%、女性77.3%であった。

### 食生活に気をつけることで生活習慣病のリスクを低下させることを知っていますか？



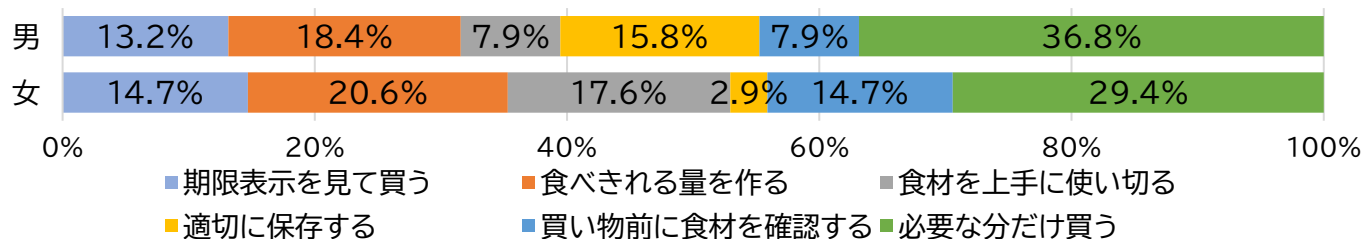
・食生活に気をつけることで生活習慣病のリスクを低下させることを「知っている」人は男性77.6%、女性86.4%であった。

### 無駄な買い物をさける、食べ残しを減らすなど、食品の廃棄が少なくなるように心がけていますか？



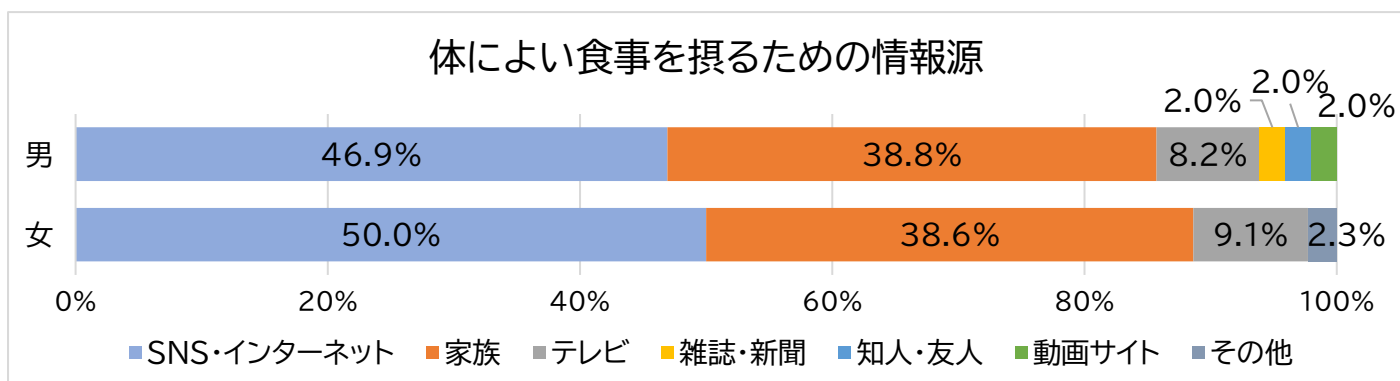
・食品の廃棄が少なくなるように心がけている人の割合は、男性79.6%、女性77.3%であった。

### 食品の廃棄が少なくなるように心がけている方で、もっとも心がけているもの



・男性は「必要な分だけ買う」36.8%、「食べきれぬ量を作る」18.4%、「適切に保存する」15.8%の順で割合が高い。

・女性は「必要な分だけ買う」29.4%、「食べきれぬ量を作る」20.6%、「食材を上手に使い切る」17.6%の順で割合が高い。



・情報源として男女間で大きな差はない。

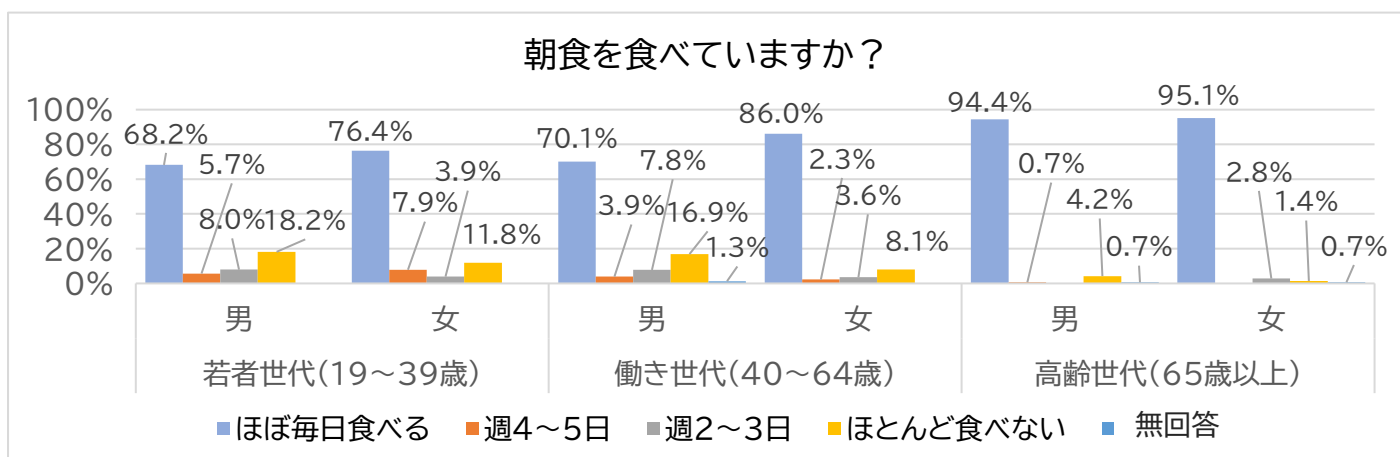
・「SNS・インターネット」男性46.9%、女性50%、「家族」男性38.8%、女性38.6%を占めている。

### 【青年期(高校生)の課題】

食の重要性を理解し、自立して自分らしい食生活を実現する時期であり、3食しっかり食べることや主食・主菜・副菜をそろえてバランスのよい食事をとり、健康な体をつくるのが大切です。

体型を気にして食事を抜いたり、残したりする人は女性で29.5%と高い一方、食生活に気をつけることで生活習慣病のリスクを低下させることを知っている男女の割合はそれぞれ約95%と高い状況です。周囲の影響を受けやすい時期でもあり、自身の体型や食生活について誤った認識や理解により、やせや生活習慣の乱れなどによる欠食も課題となっています。体によい食事を摂るための情報源として「SNS・インターネット」、次いで「家族」の順で割合が高いことから、SNS・インターネットから正しい情報を得る力を習得したり、高校生本人のみならず保護者に対しても情報発信していくことで、双方によい影響を与えられると考えられます。

### ○若者世代・働き世代・高齢世代について

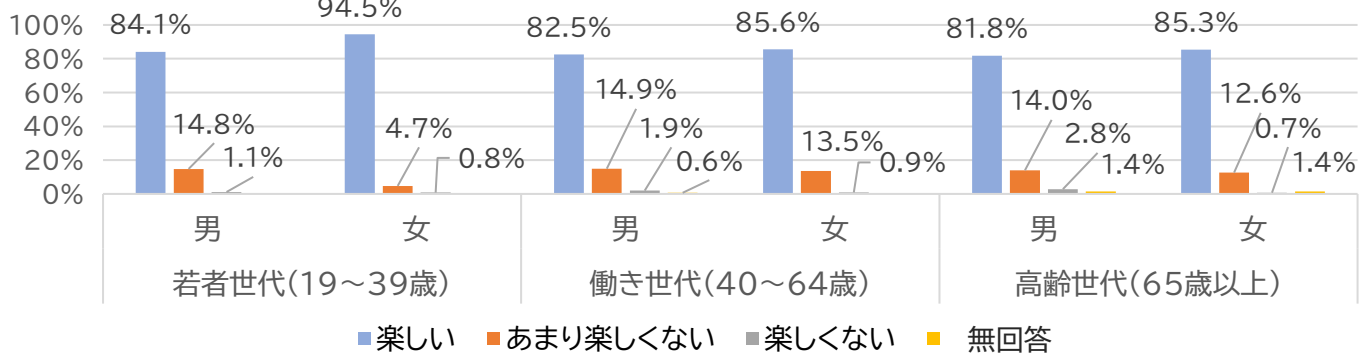


・年齢が高い世代になるにつれて朝食を「ほぼ毎日食べる」人の割合が高い。

・若者世代、働き世代は朝食を「ほぼ毎日食べる」人の割合に男女差がみられる。

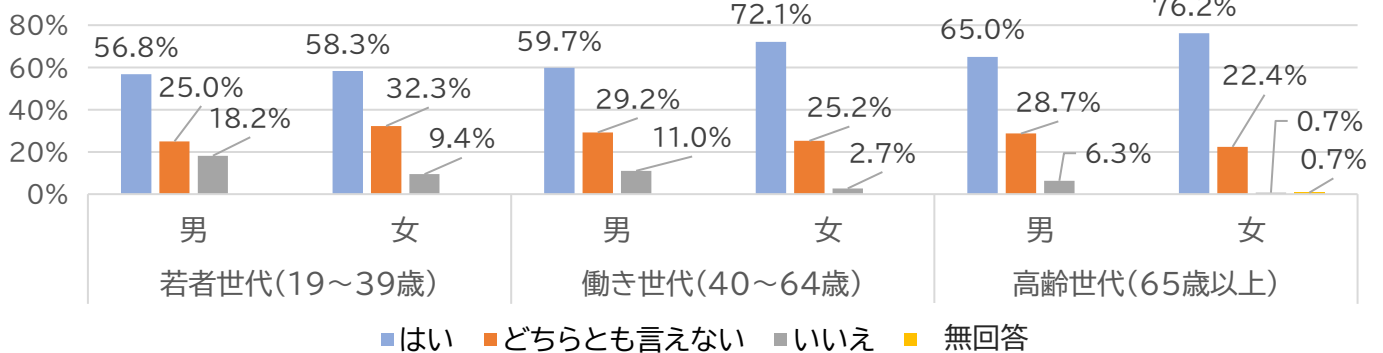
・若者世代、働き世代の男性は朝食を「ほとんど食べない」人の割合が高い。

## 食事が楽しいですか？



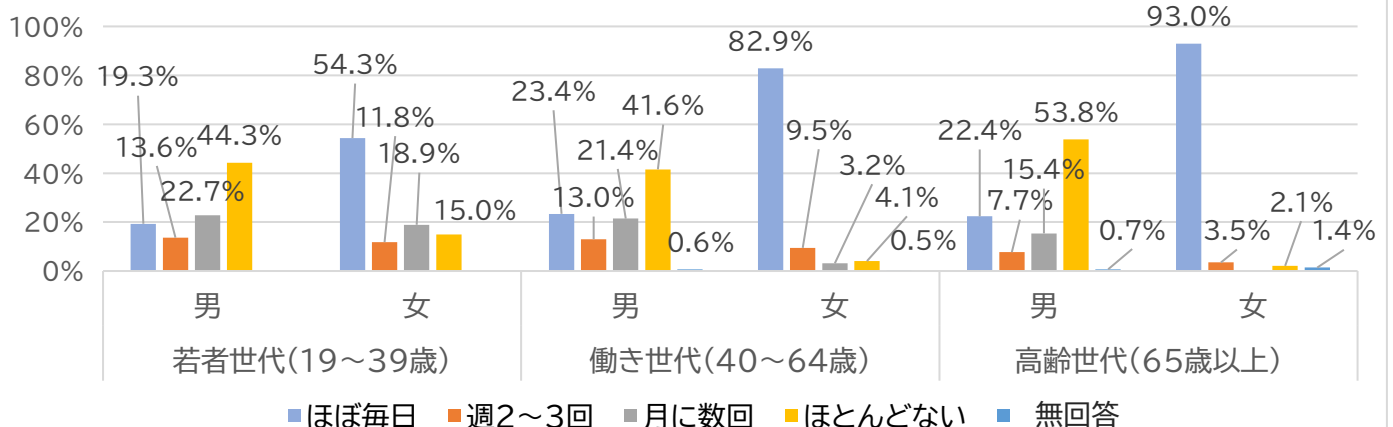
・どの世代も80%以上の人は食事が「楽しい」と回答している。

## 食事をする際、栄養のバランスに気をつけていますか？



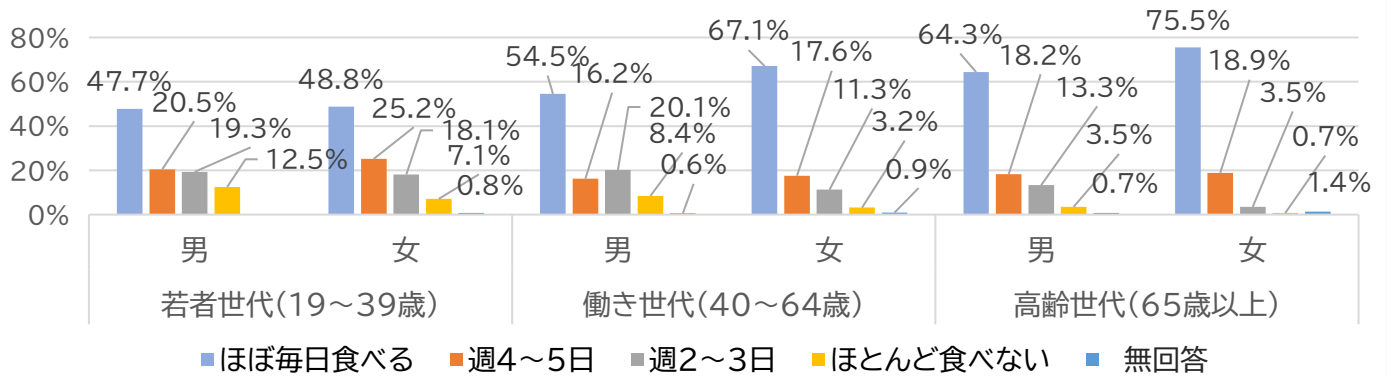
- ・年齢が高い世代になるにつれて食事をする際、栄養のバランスに「気をつけている」人の割合が高い。
- ・男性より女性の方が栄養のバランスに「気をつけている」人の割合が高い。

## 自分のため、あるいは家族のために調理をすることがありますか？



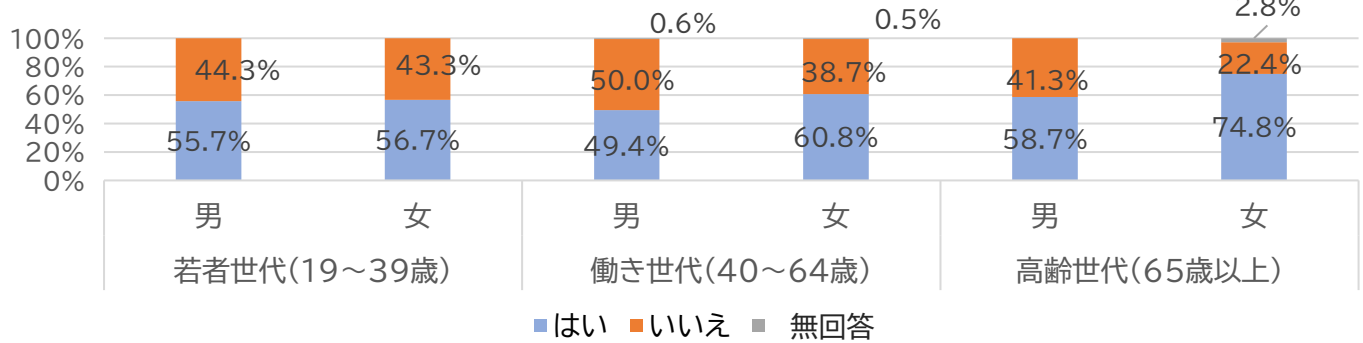
- ・働き世代、高齢世代の女性は自分のため、あるいは家族のために調理をすることが「ほぼ毎日」の割合が高い。
- ・どの世代の男性も自分のため、あるいは家族のために調理をすることが「ほとんどない」の割合が高い。

## 主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上摂る日は週にどれくらいありますか？



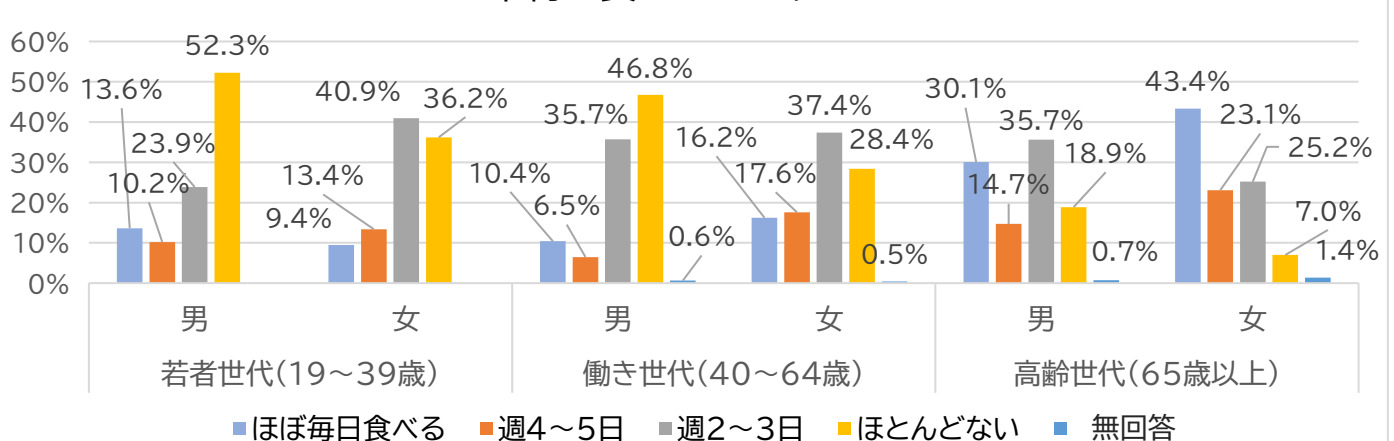
- ・年齢が高い世代になるにつれて、主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上摂る日が「ほぼ毎日」の割合が高い。
- ・働き世代、高齢世代は男性より女性の方が、主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上摂る日が「ほぼ毎日」の割合が高い。
- ・若い世代に男女差はみられない。

## 野菜料理を毎日2回以上食べていますか？



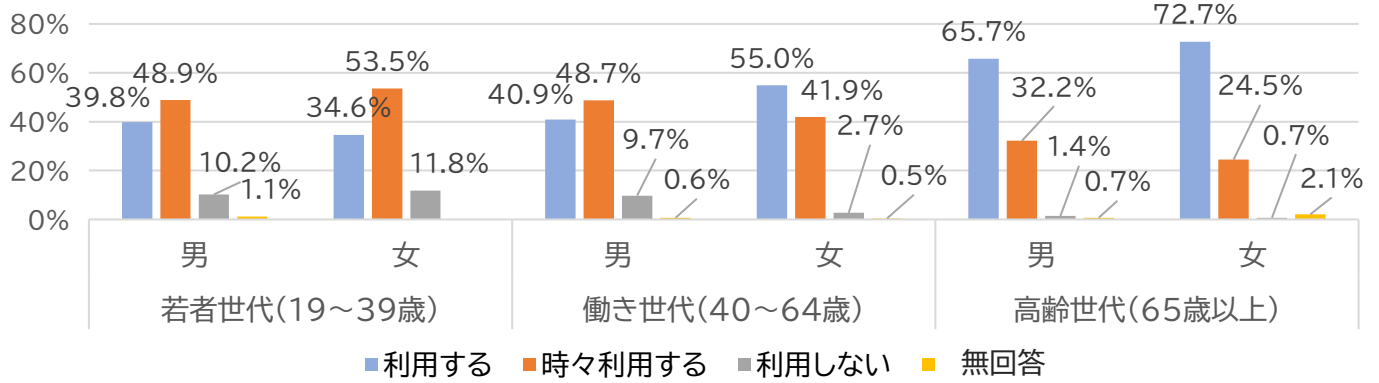
- ・高齢世代の女性は野菜料理を毎日2回以上「食べている」人の割合が高い。
- ・働き世代、高齢世代の男女では野菜料理を毎日2回以上「食べている」人の割合に差がある。

## 果物を食べていますか？



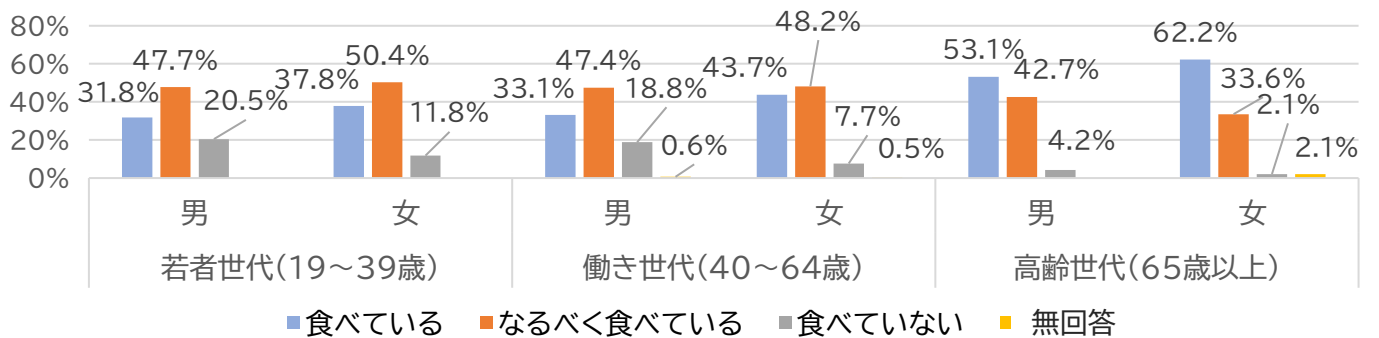
- ・高齢世代で果物を「ほぼ毎日食べる」割合が高い。
- ・若者世代、働き世代で果物を「ほとんど食べない」割合が高く、特に男性が高い。

### 年間を通して地元(山梨県内)で採れた野菜を利用しますか？



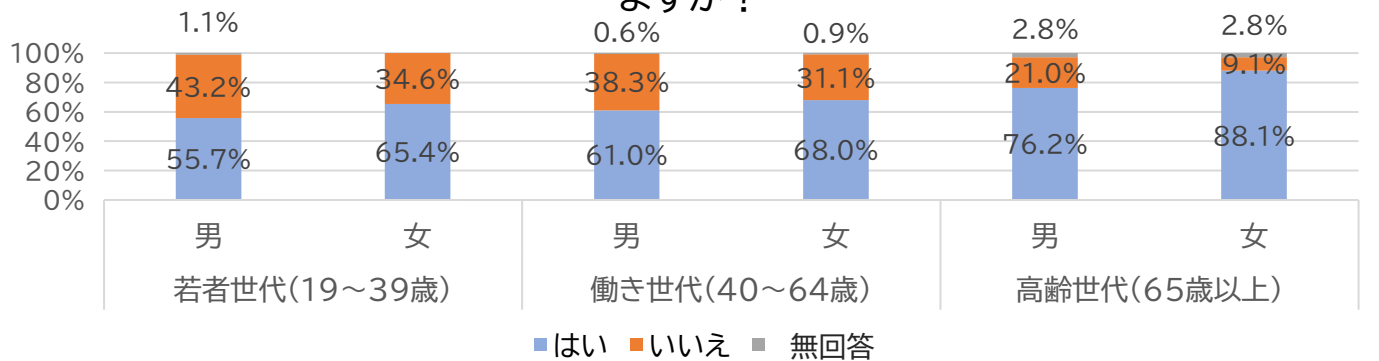
- ・高齢世代は年間を通して地元(山梨県内)で採れた野菜を「利用する」割合が高い。
- ・地元(山梨県内)で採れた野菜を利用している割合は、「利用する」「時々利用する」を合わせると90%近い。

### 骨を丈夫にするカルシウム(牛乳・乳製品など)、ビタミンD(魚やきのこなど)を意識的に食べていますか？



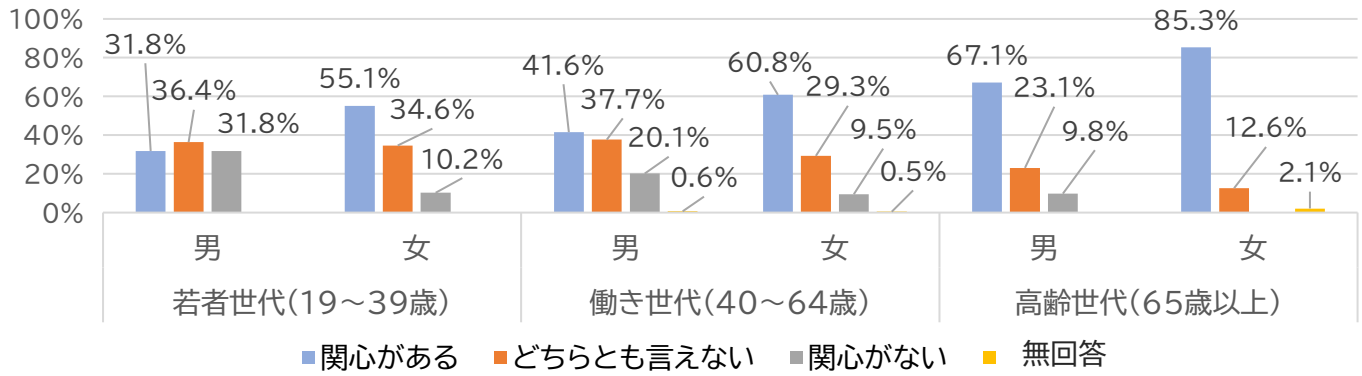
- ・高齢世代で骨を丈夫にするカルシウム(牛乳・乳製品など)、ビタミン D(魚やきのこなど)を意識的に「食べている」の割合が高い。
- ・骨を丈夫にするカルシウム(牛乳・乳製品など)、ビタミン D(魚やきのこなど)を意識的に「食べている」「なるべく食べている」を合わせると約80~90%と高い。

### ほぼ同じ年齢の同性と比較して健康に気をつけた食事を心がけていますか？



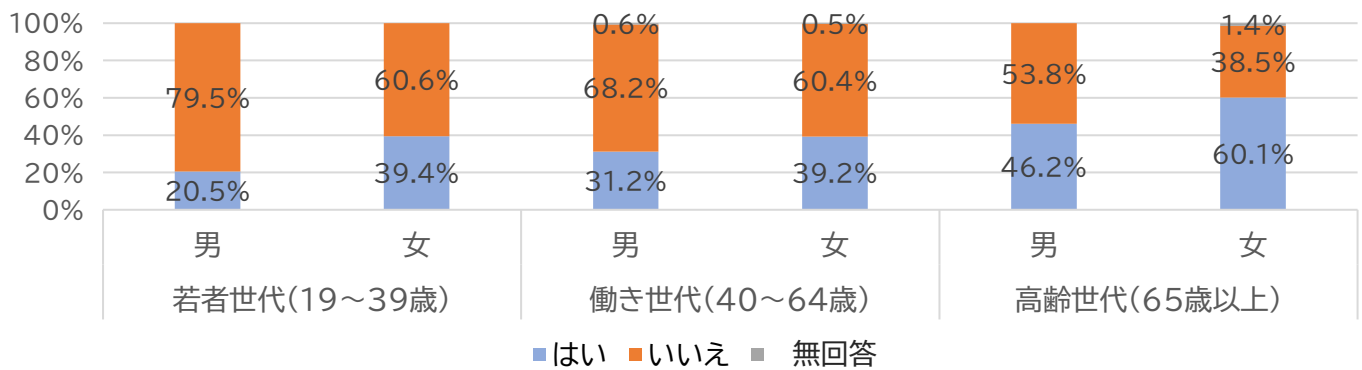
- ・高齢世代でほぼ同じ年齢の同性と比較して健康に気をつけた食事を「心がけている」人の割合が高い。

## 減塩について関心がありますか？



- ・高齢世代で減塩について「関心がある」人の割合が高い。
- ・若者世代、働き世代の女性は「関心がある」人の割合が高い。

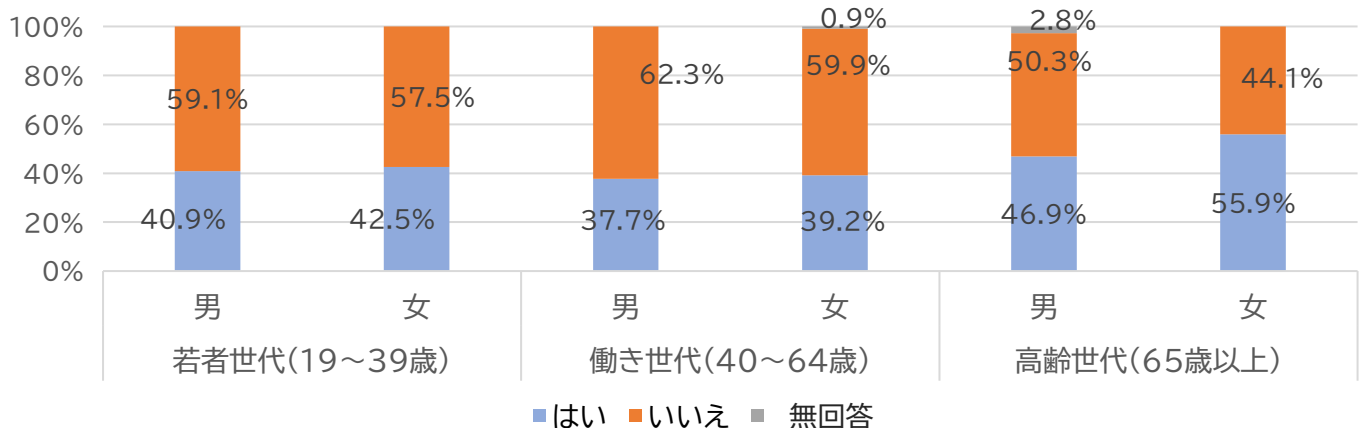
## 減塩について学んだことがありますか？



- ・若者世代、働き世代は減塩について学んだことが「ある」人に比べて、学んだことが「ない」人の割合が高い。

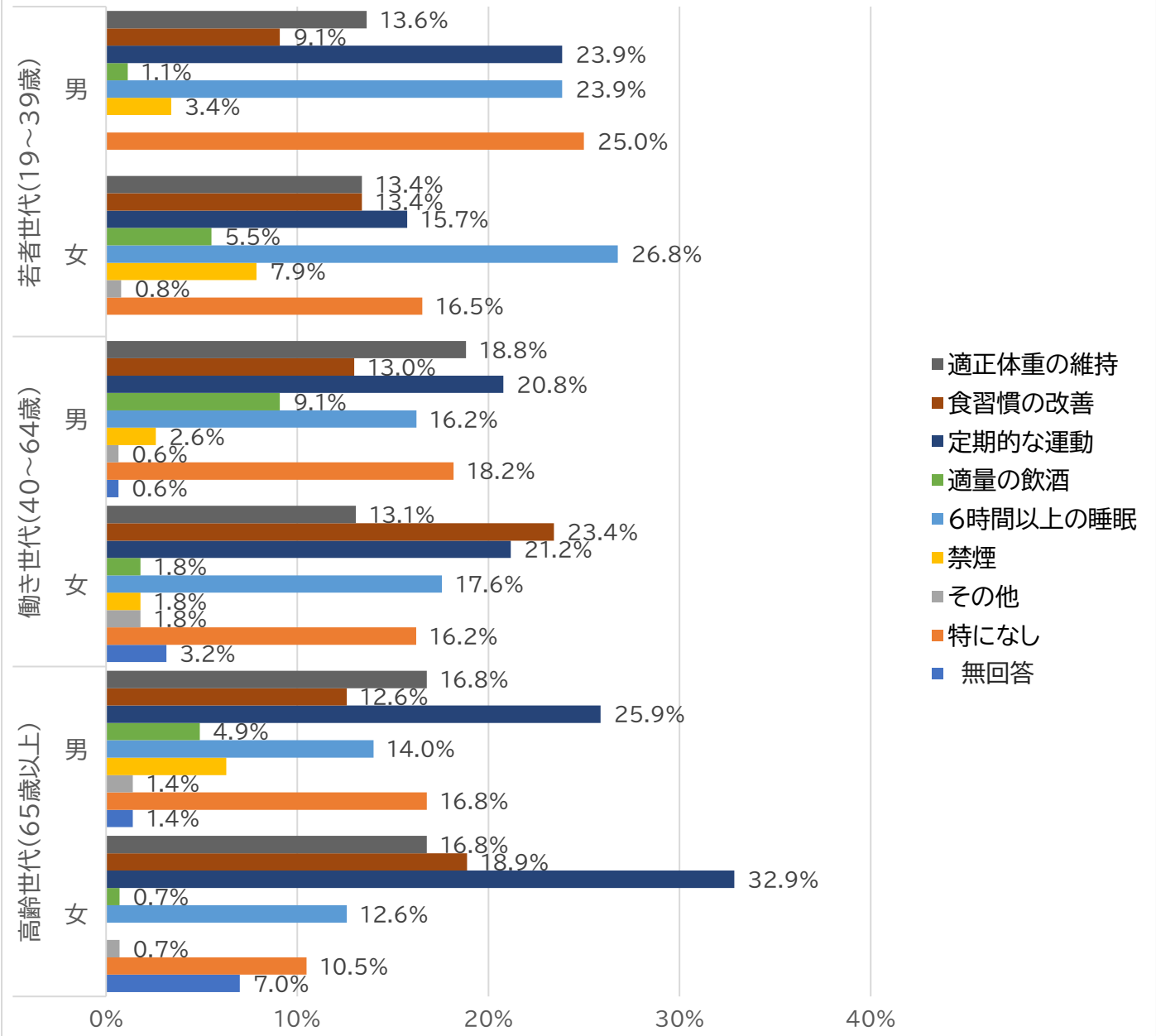
高齢世代は減塩について学んだことが「ある」人の割合が約50%となっている。

## 1日の食塩摂取の目標量を知っていますか？



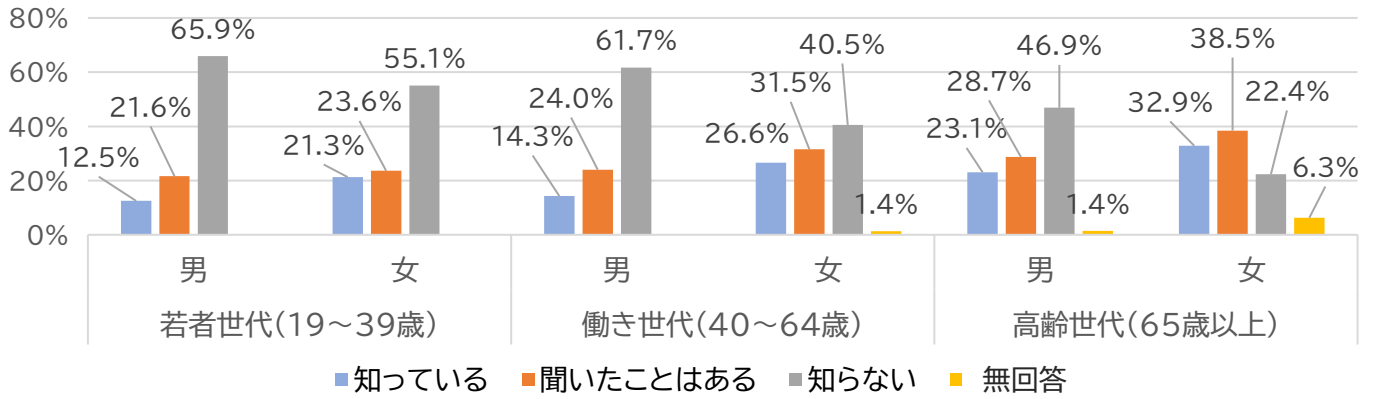
- ・若者世代、働き世代は1日の食塩摂取の目標量を「知っている」人の割合が低かった。
- ・高齢世代は、ほかの世代に比べて1日の食塩摂取の目標量を「知っている」人の割合が高い。

## 生活習慣病予防のために取り組んでいること



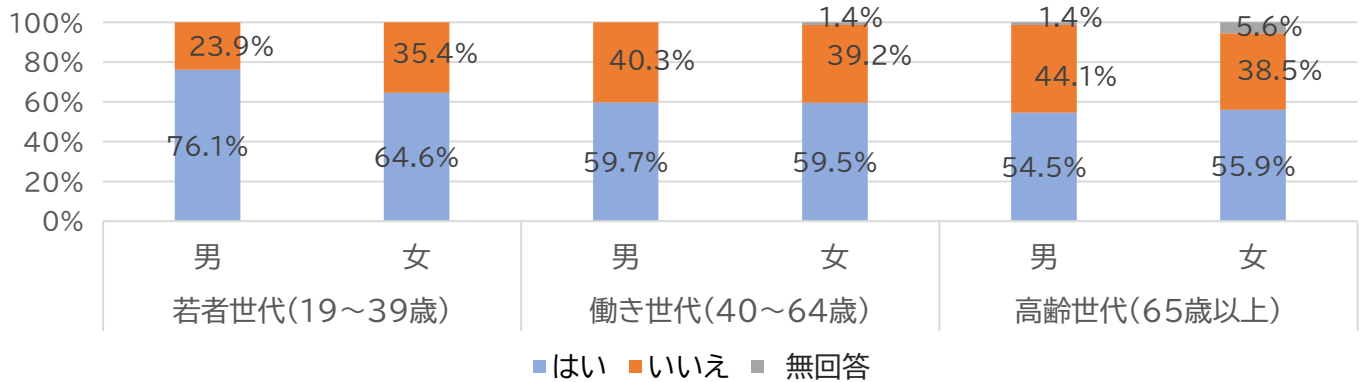
- ・高齢世代は定期的な運動、適正体重の維持の割合が高い。
- ・働き世代は6時間以上の睡眠、定期的な運動、食習慣の改善の割合が高い。
- ・若者世代は6時間以上の睡眠、男性は特になしの割合が高い。

## フレイルと食生活の関係について知っていますか？



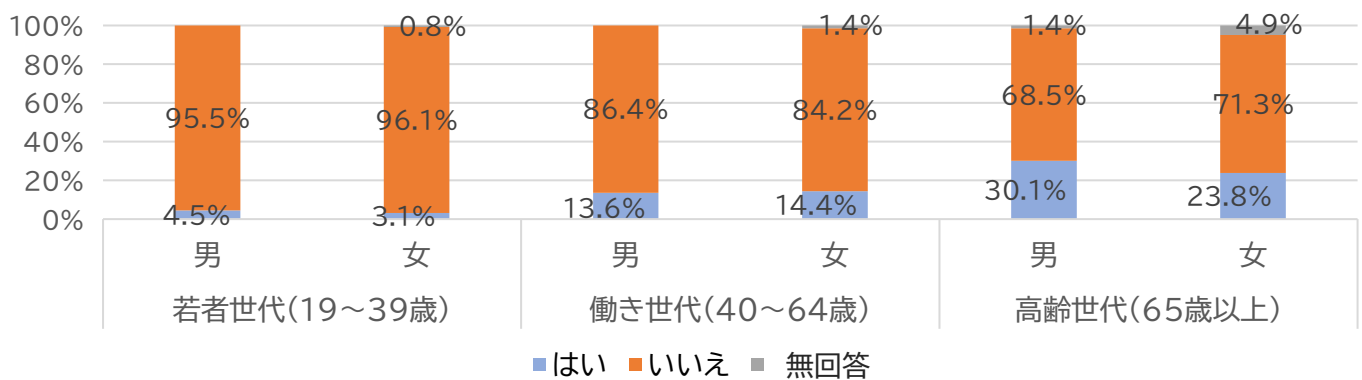
- ・若者世代、働き世代の男性はフレイルと食生活の関係について「知らない」の割合が高い。
- ・働き世代の女性、高齢世代はフレイルと食生活の関係について「知っている」「聞いたことはある」を合わせると約60%。

## 動物性たんぱく質(肉、魚)を主菜として毎日2回以上食べていますか？



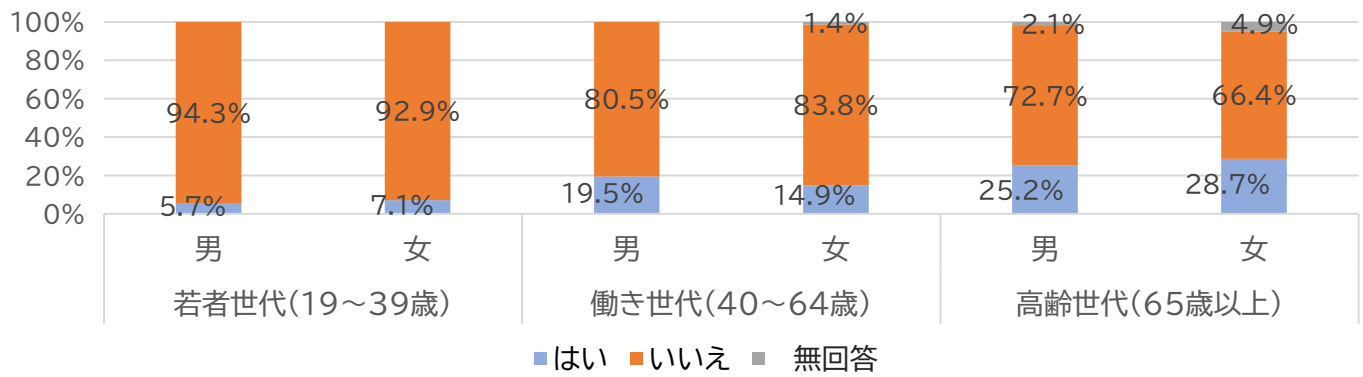
- ・若者世代は動物性たんぱく質(肉、魚)を主菜として毎日2回以上「食べている」割合が高い。
- ・年齢が高い世代になるにつれて動物性たんぱく質(肉、魚)を主菜として毎日2回以上「食べている」割合が低くなっている。

## 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか？



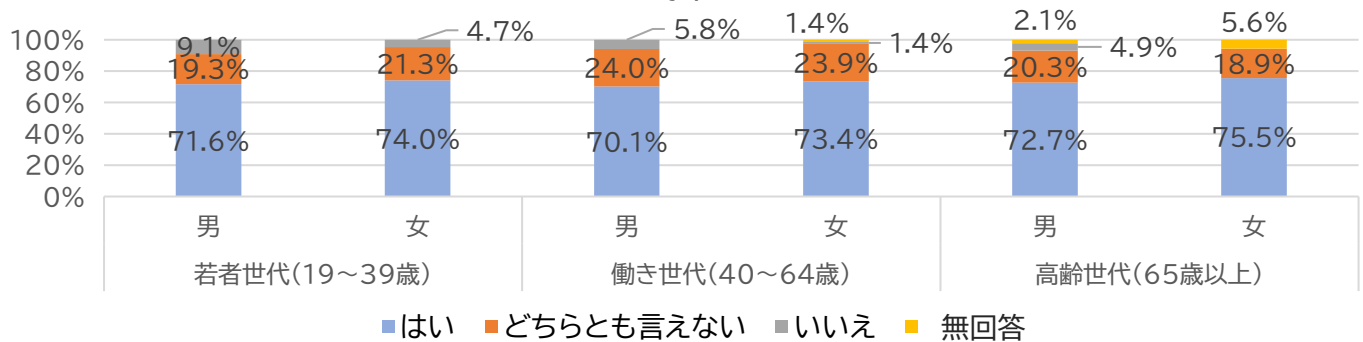
- ・年齢が高い世代になるにつれて半年前に比べて固いものが「食べにくくなった」人の割合が高くなっている。
- ・若者世代でも半年前に比べて固いものが「食べにくくなった」人がいる。

## お茶や汁物等でむせることがありますか？



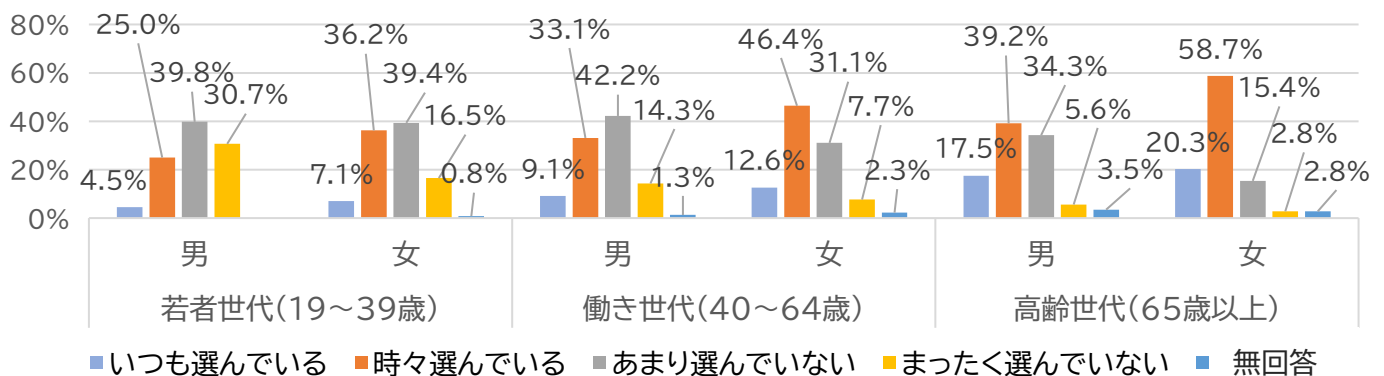
- ・年齢が高い世代になるにつれてお茶や汁物等で「むせることがある」人の割合が高くなっている。
- ・若者世代でもお茶や汁物等で「むせることがある」人がいる。
- ・半年前に比べて固いものが食べにくくなった人の割合とお茶や汁物等でむせることがある人の割合は、同様の推移をしている。

## 無駄な買い物をさける、食べ残しを減らすなど、食品の廃棄が少なくなるように心掛けていますか？



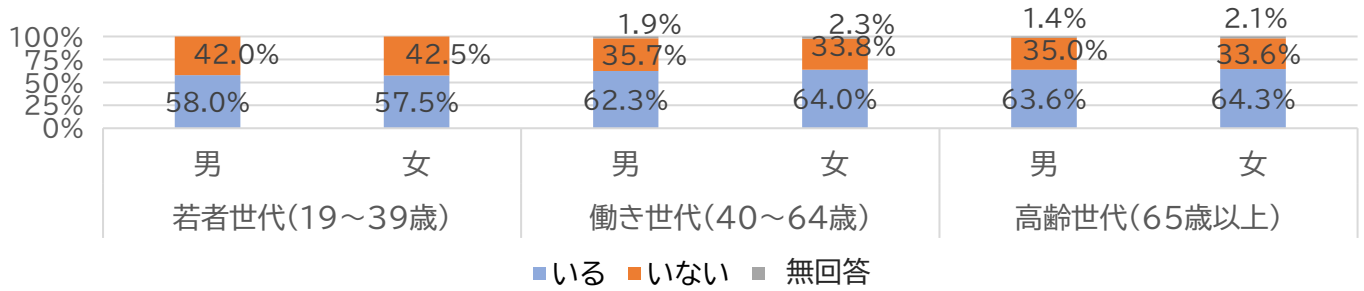
- ・世代間に回答の差はみられない。
- ・どの世代も食品の廃棄が少なくなるように「心掛けている」人の割合は70%以上となっている。

## 日頃から環境に配慮した農林水産物・食品を選んでいきますか？



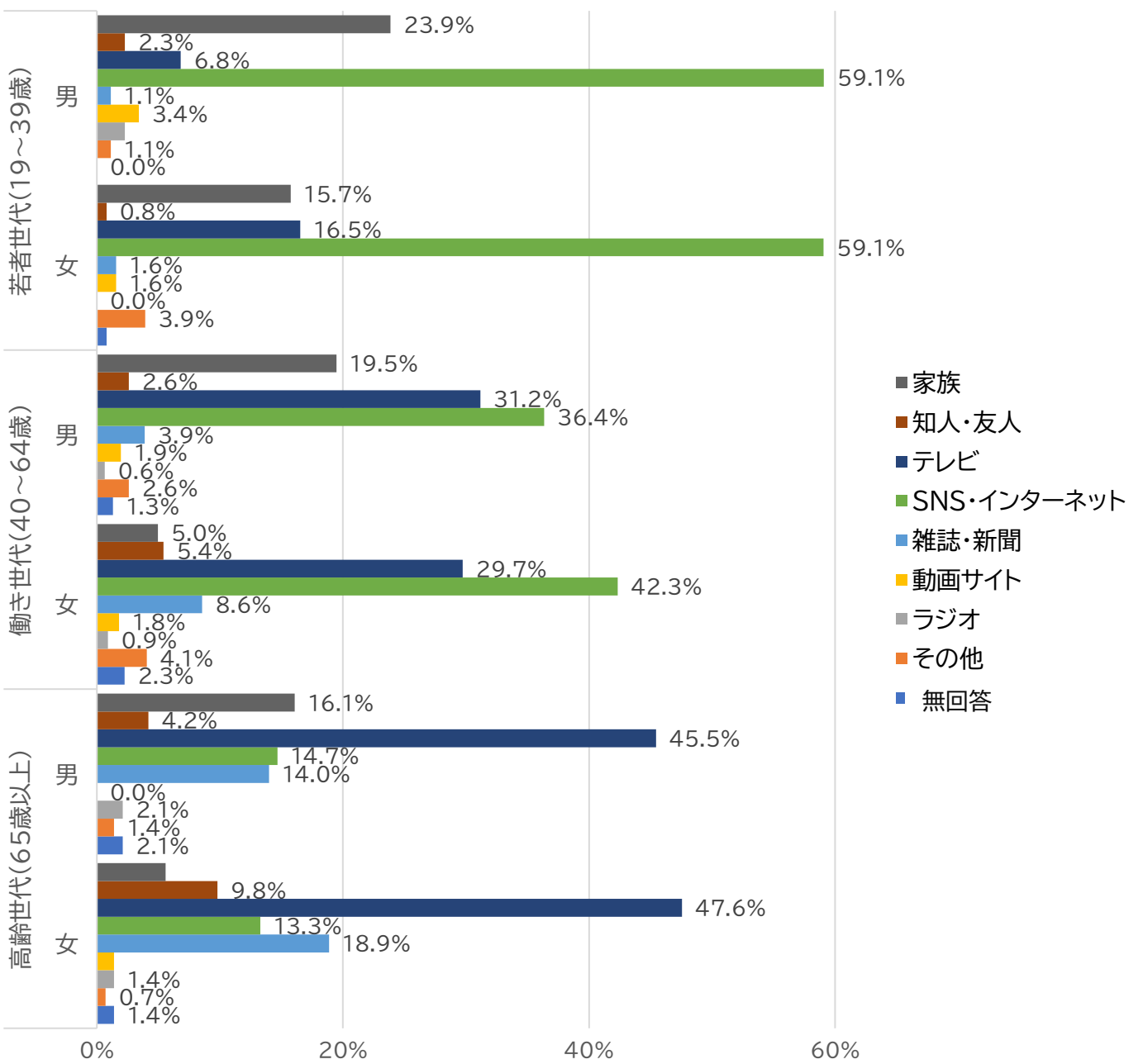
- ・年齢が高い世代になるにつれて環境に配慮した農林水産物・食品を「いつも選んでいる」「時々選んでいる」を合わせた割合は高くなっている。
- ・どの世代も女性の方が環境に配慮した農林水産物・食品を「いつも選んでいる」「時々選んでいる」の割合が高い。

### これまで、あなた又はあなたの家族の中で、農林漁業体験をしたことがある人はいますか？



・どの世代も農林漁業体験をしたことが「ある」の割合は50%以上になっている。

### 食や栄養に関する情報源として最も多いものを1つ選んでください。



・若者世代は約半数以上の割合が SNS・インターネット、次いで家族やテレビ、働き世代は SNS・インターネットに加えて、テレビ、高齢世代はテレビ、雑誌・新聞の割合が高い。

### 【若者世代の課題】

生活の自立や就職、結婚、出産などのライフイベントや生活環境の変化により、運動不足、睡眠不足、ストレスの問題が起こりやすい時期です。働き世代や高齢世代に比べて、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をほぼ毎日摂っている割合や、骨を丈夫にするカルシウムやビタミンDを含む食材を意識的に食べている割合、減塩に関心がある割合など、自身の健康に関わる項目において低い傾向があります。国の第4次食育推進基本計画の評価専門委員会でも、若者(20代男性)の食育に対する関心が低いことが指摘されており、「食費を安くすることの方が重要」、「食事や食生活を特に意識しなくても健康だ」と考えている人の割合が高いことがわかっています。物価高騰などの社会情勢が食への関心の優先順位を低下させていることも懸念されています。

### 【働き世代の課題】

働き世代は、ライフイベントや環境の変化に加えて、家庭や職場、地域において重要な役割を担い、多忙な生活を送る一方で、身体機能の低下や更年期によるホルモンバランスの乱れが生じます。朝食を毎日食べない人やバランスの取れた食事ができていない人が多く、食に関する優先度が低いことが指摘されており、アンケートの集計結果を見てもその傾向がうかがえます。また、減塩や骨を丈夫にするカルシウム、ビタミンDの摂取、果物の摂取など、生活習慣病予防や骨折予防に関わる食事についての関心も低いことが挙げられます。「生活習慣病予防のために取り組んでいますか」という項目では、すでに取り組んでいる人もいる一方で、若者世代と同じくらい「特にない」と答える人の割合も高い状況です。ストレスや睡眠不足といった課題もある世代であるため、定期的な運動やバランスの取れた食事、ストレスの管理、十分な睡眠などが重要です。自分の健康を大切にするためには、日々の生活習慣に気を配ることが大切だと考えられます。

### 【高齢世代の課題】

高齢者は基礎代謝が低下しやすく、筋肉量も減少しやすいため、栄養の摂取が特に重要です。さらに、食欲の低下や嚥下障害がある場合もあります。フレイルの悪循環に陥らないよう、早期に予防することが求められます。朝食をほぼ毎日食べる割合や、主食・主菜・副菜がそろった食事をしている割合、野菜や果物を摂取している割合などは、若者世代や働き世代に比べて高く、食に対する意識が高いと考えられます。一方で、半年前と比べて固いものが食べにくくなった人の割合や、お茶や汁物などでむせることがある人の割合は高く、口腔機能低下の問題や、筋肉のもととなるたんぱく質が十分に摂取できていない課題が挙げられます。認知機能の低下や生活習慣病のリスクが高まることも課題として挙げられており、高齢者の栄養や健康をサポートするためには、毎食主食・主菜・副菜をしっかりとした量で摂ること、適切な運動、定期的な健康診断の受診が重要です。また、社会的なつながりや趣味など、心の健康も大切になってきます。

## 2 第4次食育推進計画の取組状況

第4次山梨市食育推進計画では、「朝食の役割を理解し、栄養バランスの良い食事を心がけましょう」、「健康と食生活の関係について理解し、生涯健康に過ごしましょう」、「地元で採れた食材について学び、食への感謝の心を育みましょう」、「新しい生活様式に応じた食育を進めましょう」の4つの基本方針を掲げ、ライフステージ別の指標を達成するために食育を推進してきました。目標値を達成した指標もありますが、達成できなかった指標もありました。社会情勢などを踏まえた新たな視点を取り入れ、さらなる食育推進を図ります。

	指標	計画策定時 基準値	R4年度 中間評価	R7年度 最終評価	目標値	目標値の 達成状況
妊産婦期	朝食をほぼ毎日食べている妊産婦の割合	82.5%	75%	76.3%	85%	C
	妊娠中に「カルシウム」、「鉄」、「葉酸」を含む食材3種類を積極的に摂っていた人の割合	31.6%	32.4%	32.5%	40%	C
乳幼児期	朝食をほぼ毎日食べている1歳6カ月児の割合	97.9%	96.4%	97.2%	100%に近づく	C
	朝食をほぼ毎日食べている3歳児の割合	92.1%	96.1%	96.3%	100%に近づく	C
	朝食をほぼ毎日食べている5歳児の割合	97.5%	97.0%	96.2%	100%に近づく	C
	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上している日がほぼ毎日の幼児の割合	64.7%	65.3%	69.4%	70%	C
学齢期	朝食をほぼ毎日食べている小学生の割合	90.5%	89.3%	92.1%	100%に近づく	C
	朝食をほぼ毎日食べている中学生の割合	89.0%	85.2%	83.0%	100%に近づく	C
	赤・黄・緑の食品の分類を理解している小学生の割合	21.8%	19.8%	34.5%	50%	B
	主食・主菜・副菜の料理分類を理解している中学生の割合	70.9%	69.6%	72.1%	90%	C
	食に対する感謝の心を持っている小・中学生の割合	79.5%	77.2%	76.4%	90%	C
	給食を残さないように食べる小学生の割合	85.9%	74.6%	82.3%	90%	C
	給食を残さないように食べる中学生の割合	76.1%	73.9%	84.7%	80%	A
青年期	朝食をほぼ毎日食べている高校生の割合	86.6%	84.3%	86.5%	100%に近づく	C
	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上をほぼ毎日している者の割合	64.7%	54.2%	76.0%	70%	A
	減塩について関心がある者の割合	38.7%	43.9%	59.4%	45%	A
	食生活に気をつけることで、生活習慣病のリスクを低下させることを知っている者の割合	74.8%	75.7%	80.2%	80%	A

	指標	計画策定時 基準値	R4年度 中間評価	R7年度 最終評価	目標値	目標値の 達成状況
壮年期	朝食をほぼ毎日食べている者の割合	75.8%	71.2%	73.5%	85%	C
	主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上している者の割合	48.3%	49.2%	54.3%	55%	B
	減塩について関心がある者の割合	60.4%	47.6%	51.1%	65%	D
中年期	朝食をほぼ毎日食べている者の割合	79.4%	79.4%	81.8%	85%	C
	主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上している者の割合	48.9%	60.4%	62.3%	55%	A
	野菜料理を毎日2回以上食べている者の割合	64.5%	70.2%	56.9%	70%	D
	減塩について関心がある者の割合	62.6%	60.1%	54.4%	70%	D
	フレイルと食生活の関係について知っている者の割合	10.7%	23.6%	22.0%	50%	B
高齢期	主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上している者の割合	76.8%	76.1%	70.2%	85%	C
	フレイルと食生活の関係について知っている者の割合	24.0%	22.9%	28.4%	60%	B
	動物性たんぱく質を主菜として毎日2回以上食べている者の割合	62.7%	63.9%	55.7%	70%	D
	半年前に比べて固いものが食べにくくなった者の割合	27.8%	36.8%	26.6%	20%	C
	お茶や汁物等でむせることがある者の割合	25.2%	27.1%	26.6%	20%	C
市民共通	食品の廃棄が少なくなるように心がけている者の割合	78.8%	72.2%	73.0%	85%	C

※第4次計画策定時、学童期の「給食を残さないように食べる小学生、中学生の割合」について、苦手なものであっても自身の健康のために給食を残さず食べてもらうように取り組んできた。現在は、残さず食べるように指導しておらず、食の自己管理、食べる量を自分で調整する力を育てること等の観点から、第5次計画ではこの内容を取り入れないこととした。

※計画策定時の数値に対する増減率【(実績値-基準値)/基準値×100】で評価します。

A 目標値に達した	目標値以上
B 目標値に達していないが、改善傾向にある	+10%以上
C 変わらない	±10%未満
D 悪化している	-10%以下
E 評価困難	制度の変更や数値の把握方法が違うため比較ができず評価が困難なもの